

岡山県感染症週報 2019年第36週 (9月2日～9月8日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

9月24日～30日は『結核予防週間』です。

◆2019年第36週(9/2～9/8)の感染症発生動向(届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第34週	2類感染症	結核	1名(80代 女)
	5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1名(70代 男)
第35週	2類感染症	結核	1名(90代 女)
	4類感染症	レジオネラ症	1名(60代 男)
	5類感染症	ウイルス性肝炎	1名(20代 男)
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1名(40代 女)
		百日咳	4名(幼児 男 1名、小学生 男 1名、50代 女 1名、80代 女 1名)
第36週	2類感染症	結核	2名(乳児 女 1名、100代 男 1名)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1名(O157:高校生 女)
	4類感染症	レジオネラ症	2名(50代 男 1名、60代 男 1名)
	5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1名(50代 男)
		急性脳炎	1名(幼児 女)
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1名(幼児 男)
		梅毒	1名(50代 男)
		百日咳	19名(幼児 男 3名・女 1名、小学生 男 2名・女 6名、中学生 男 1名、高校生 男 1名、30代 女 3名、50代 男 1名、70代 男 1名)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5

○RSウイルス感染症は、県全体で134名(定点あたり1.33→2.48人)の報告があり、前週から増加しました。

○手足口病は、県全体で192名(定点あたり3.37→3.56人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。

1. [百日咳](#)は、2019年第36週に19名の報告があり、2019年第36週までの累計報告数は295名となりました(2018年の同時期:117名)。年代別では小学生(143名、49%)、20歳以上(63名、21%)、0～6歳の乳幼児(56名、19%)が多く報告されています。地域別では、備中地域(81名、28%)、倉敷市(79名、27%)、岡山市(67名、23%)の順で多くなっています。百日咳は、ワクチン未接種の乳幼児がり患すると無呼吸発作などを起こすことがあり、重篤化しやすく注意が必要です。特に成人の感染時は、風邪などと見分けがつかないまま、感染が広がる可能性があるため、咳が続く場合は早めに医療機関を受診することが重要です。予防法は、予防接種とともに、感染者との接触を避けること、流行時のうがいや手洗い、手指の消毒などです。また、感染時は、軽症でも菌の排出があるため『[咳エチケット](#)』を心がけ、感染拡大防止に努めましょう。
2. [風しん](#)は、2019年第36週までに3名(第2週、第4週、第6週各1名)の報告がありました。なお、2018年の累計報告数は29名でした。全国の発生状況など詳しくは、「[今週の注目感染症①](#)」をご覧ください。
3. [RSウイルス感染症](#)は、県全体で134名(定点あたり1.33→2.48人)の報告があり、前週から増加しました。過去10年間の同時期と比較して、最も多くなっています。地域別では、美作地域(7.83人)、岡山市(2.50人)で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、大人は軽い風邪程度の症状で軽快しますが、乳幼児が感染すると重症化する恐れがあります。有効なワクチンはなく、症状に応じた対症療法が行われます。今後の県内の発生状況に注意するとともに、手洗い、うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。
4. [手足口病](#)は、県全体で192名(定点あたり3.37→3.56人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、倉敷市(5.64人)、岡山市(5.00人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは、「[今週の注目感染症②](#)」をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡	★	RSウイルス感染症	➡	★★★★★
咽頭結膜熱	➡	★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★
感染性胃腸炎	➡	★★	水痘	➡	★
手足口病	➡	★★★★	伝染性紅斑	➡	★★★★★
突発性発疹	➡	★	ヘルパンギーナ	➡	★
流行性耳下腺炎	➡	★	急性出血性結膜炎	➡	
流行性角結膜炎	➡	★	細菌性髄膜炎	⬆	★
無菌性髄膜炎	➡		マイコプラズマ肺炎	⬇	
クラミジア肺炎	➡		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	

【記号の説明】 前週からの推移： ⬆：大幅な増加 ➡：増加 ➡：ほぼ増減なし ⬇：減少 ⬇：大幅な減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症①

★風しん

症状等についてはこちらをご覧ください。

⇒『風しんについて』（厚生労働省）

●全国の発生状況

風しんは、2018年に全国的に流行しました（2018年の全国の風しん届出数：2,946名）。

2015～2017年の3年間では年間93～163名）。

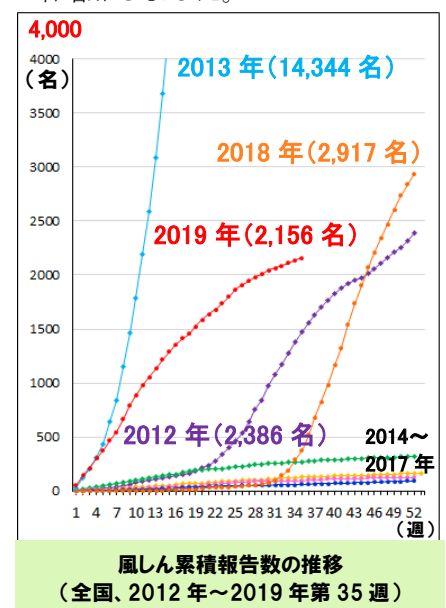
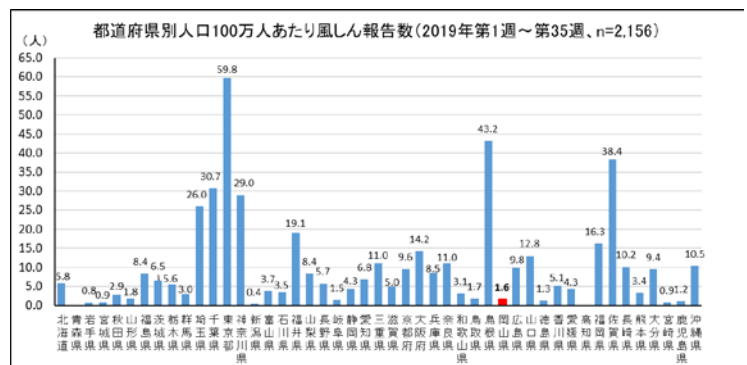
2019年に入ってから、全国では第1週から第

35週の風しん累積患者報告数は2,156名となり、第34週の2,134名から22名増加しました。

2019年第1週から第35週までの人口100万人あたりの患者報告数は全国で17.0人となり、東京都が59.8人で最も多く、次いで島根県43.2人、佐賀県38.4人、千葉県30.7人、神奈川県29.0人と続いています。患者の95%が成人で、男性が女性の3.8倍多く報告されており、特に30～40代の男性に多くなっています（男性患者全体の60%）。

<中国・四国地方の状況>

- 2018年累積報告数（カッコ内は人口100万人あたりの患者報告数）
 岡山県：29名（15.1人）、広島県：28名（9.8人）、山口県：24名（17.1人）、愛媛県：7名（5.1人）
- 2019年第1週～第36週（速報値）累積報告数
 島根県：30名（43.2人）、広島県：28名（9.8人）、山口県：18名（12.8人）、愛媛県：6名（4.3人）、香川県：5名（5.1人）、岡山県：3名（1.6人）



●先天性風しん症候群(CRS)とは

妊娠初期に風しんに罹患すると、風しんウイルスが胎児に感染し、出生児に先天性風しん症候群(CRS)と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状です。

全国では2019年第4週、第17週および第24週に、各1名ずつの先天性風しん症候群の発生報告がありました。

風しんの予防について

●風しんはワクチンで予防できます！

妊娠を希望する女性や同居する家族で、過去に予防接種を受けていない方や風しんのり患が明らかでない方などは、予防接種についてご検討ください。

また、風しんの抗体保有率が低い30~50代の男性で、風しんのり患や予防接種が明らかでない方も、合わせてご検討ください。

なお、医療機関によってはワクチンが不足している場合もありますので、事前に問い合わせることをお勧めします。

風しん抗体検査(無料)を受けましょう！

<妊娠を希望する女性や同居する家族の方>

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群の予防を目的として、岡山県では**風しんの無料抗体検査**を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市・倉敷市以外 → [風しんの無料抗体検査が受けられます \(岡山県 健康推進課\)](#)

岡山市 → [風しんの無料抗体検査](#)

倉敷市 → [風しん抗体検査について](#)

をご覧ください。

<1962(昭和37)年4月2日から1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性>

風しんの抗体保有率が低い**1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性**に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる制度が、全国的に始まりました(2019年から2021年度末までの約3年間)。

詳しくは、厚生労働省のホームページをご覧ください。お住まいの市町村予防接種担当課にお問い合わせください。

→ [風しんの追加的対策について \(厚生労働省\)](#)

[市町村から届いたクーポン券を使用できる岡山県内の医療機関リスト](#)

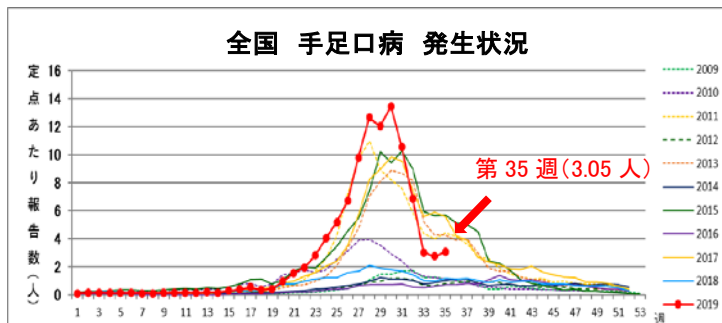
今週の注目感染症②

★手足口病

●感染経路および症状

手足口病は、夏季に乳幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症です。飛沫感染や接触感染、糞口感染(便中に排泄されたウイルスが手指などを介して口に入ること)などによって感染します。

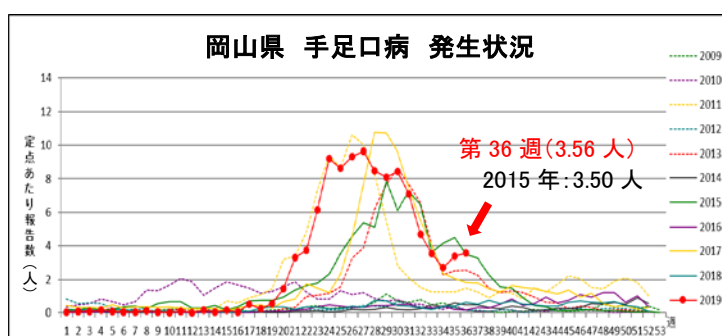
3～5日の潜伏期間の後、口の粘膜、手のひら、足の甲や裏に2～3mmの水疱性発疹が出現します。発熱は約1/3に見られますが、一般に軽度です。3～7日で水疱は消え、通常予後は良好ですが、まれに髄膜炎、脳炎、心筋炎や急性弛緩性麻痺などを起こすことがあります。なお、2019年は全国的にコクサッキーウイルスA6型の検出が多くなっており、岡山県でも同様の傾向となっています。



●発生状況

全国の第35週の定点あたり報告数は、第34週からわずかに増加しました(2.75 → 3.05人)。都道府県別では、北海道(10.44人)、山形県(10.00人)、長野県(8.48人)の順に多く、7道県で警報レベルの5.00人を超えています。

岡山県では、第36週に県全体で192名(定点あたり3.56人)の報告があり、岡山市、倉敷市および美作地域で発生レベル3が継続しています(終息基準値は2.00人)。年齢別では、第36週までで0～3歳が80%を占めています。



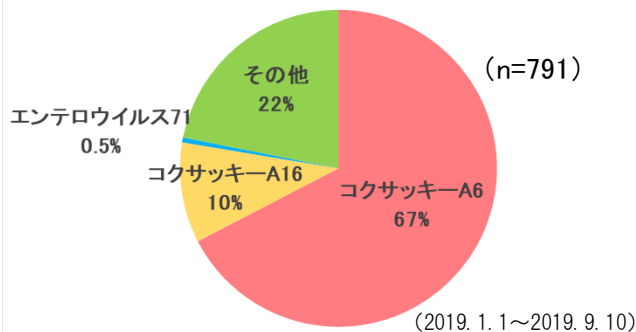
<中国・四国地方の状況(第36週)>

山口県(3.65人)、香川県(3.57人)、鳥取県(2.68人)、島根県(1.91人)、徳島県(1.83人)、愛媛県(1.70人)、広島県(1.44人)、高知県(1.27人)

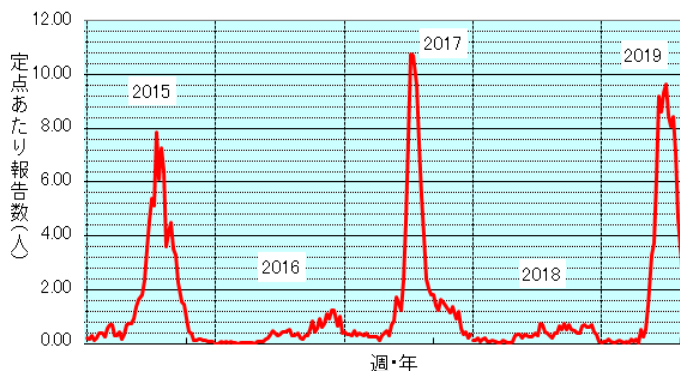
●治療および予防法

治療はなく、症状に応じた対症療法が行われます。口の中に発疹ができ食事を取りにくい場合、柔らかい薄味の食事にするなどの工夫をし、こまめな水分補給を心がけましょう。また、高熱が出る、おう吐する、頭を痛がる、ぐったりしているなどの症状がみられた場合は、すぐに医療機関を受診しましょう。有効なワクチンはないので、患者との濃厚な接触を避け、せつけんや流水による手洗いを励行し、適切に排泄物を処理するなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。症状が治まっても、2～4週間の長期間にわたり便の中にウイルスが排出されるため、手足口病にかかりやすい乳幼児が集団生活をしている保育園や幼稚園などでは特に注意が必要です。

全国 病原体検出状況(手足口病)



2015～2019年 岡山県 手足口病 発生状況 推移



[手足口病に関するQ&A\(厚生労働省\)](#)

[手足口病の流行に関して\(日本産婦人科医会\)](#)

9月24日～30日は『結核予防週間』です。

～ 長引く咳は結核かも ～

結核は過去の病気ではありません。日本では今でも年間 **15,000人以上**の新しい患者が報告され、**約2,000人が命を落としている** 重大な感染症です。結核患者の多くが高齢者で、新たに結核患者として登録される方のうち **70歳以上の方の割合が約6割**に上っていますが、近年の特徴として、若年層（特に20代）で外国生まれの患者が増加傾向にあることが挙げられます。毎年 **9月24日～30日**は「結核予防週間」です。今一度、この機会に結核について理解を深めましょう。岡山県では、街頭キャンペーンや各保健所での相談など各種活動に取り組んでいます。

結核についてのご相談は、管轄の保健所へ → [岡山県保健所管轄区域案内（厚生労働省）](#)

たとえば、このようなことに心当たりはありませんか？



© 岡山県「ももっち・うらっち」

- ✓ 痰のからむ咳が **2週間以上**続いている。
- ✓ 微熱・身体のだるさが **2週間以上**続いている。



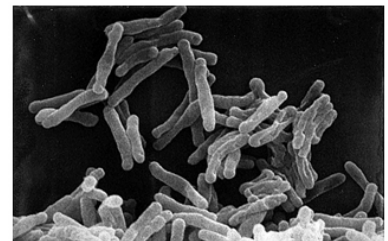
このような症状が続いたら、**結核**かもしれません。
早めに医療機関を受診し、**いつもの風邪と違うところ**を医師に伝えましょう。

注) 高齢者の方は典型的な症状が出ない場合もあります。定期的な検診が重要です。

[「結核予防週間」令和元年度リーフレット（厚生労働省）](#)

【結核とは】

結核菌が体の中に入ることによって起こる感染症です。患者のくしゃみや咳の際に、体外に排出された結核菌が空気中に長時間漂い、それを周りの人が吸い込むことによって感染します（飛沫核感染：空気感染の一種）。感染してもほとんどの場合は免疫で抑えられますが、吸い込んだ結核菌の量が多かったり、免疫が低下している場合は発病することがあります。多くの場合、肺結核として発症し、咳、痰、微熱が典型的な症状です。胸痛、呼吸困難、血痰、全身倦怠感、食欲不振などを伴うこともあります。初期には無症状のこともあります。肺以外のリンパ節、腎臓、骨、腸、脳など様々な臓器に病巣を作ることがあります。



結核菌の電子顕微鏡写真：公益財団法人結核予防会結核研究所疫学情報センターホームページより

【結核の予防接種や検診を受けましょう】

乳幼児は抵抗力が弱く、結核菌に感染すると重症化しやすいため、予防接種を行うことが重要です。生後1歳までには、必ずBCGワクチンを接種するようにしましょう。

（予防接種については、お住まいの市町村にお問い合わせください。）

また、結核の早期発見のため、職場や地域の健康診断を積極的に活用し、1年に1回は検診を受けましょう。

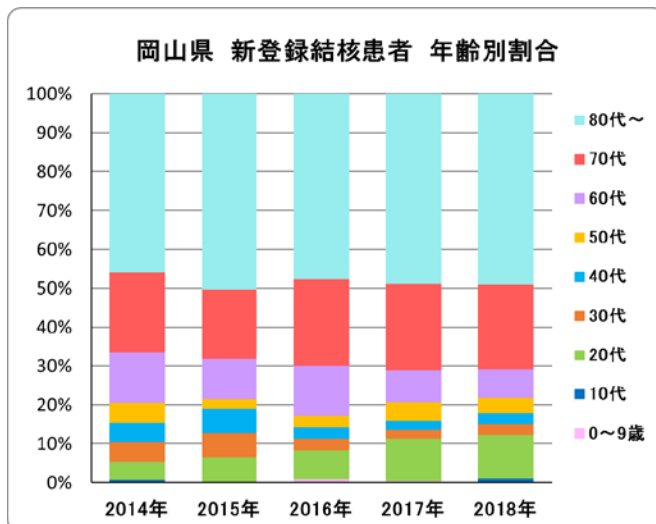
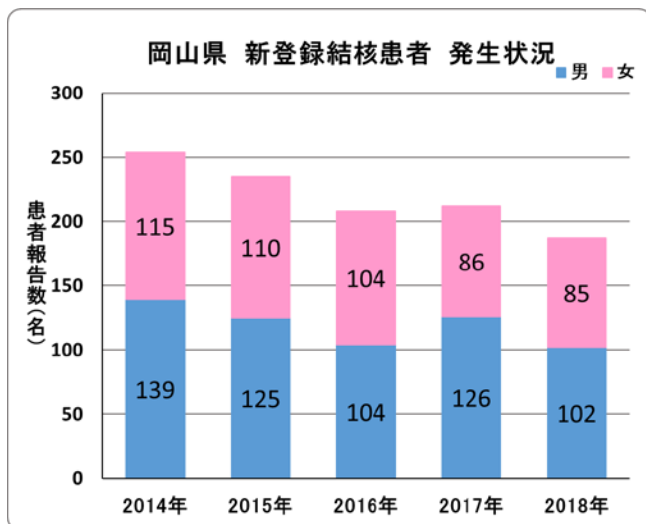
<一般向け> [結核とは？（公益財団法人 結核予防会 結核研究所）](#)

<医療従事者向け> [結核医療相談・技術支援センターを開設しています！（岡山県 健康推進課）](#)

結核について

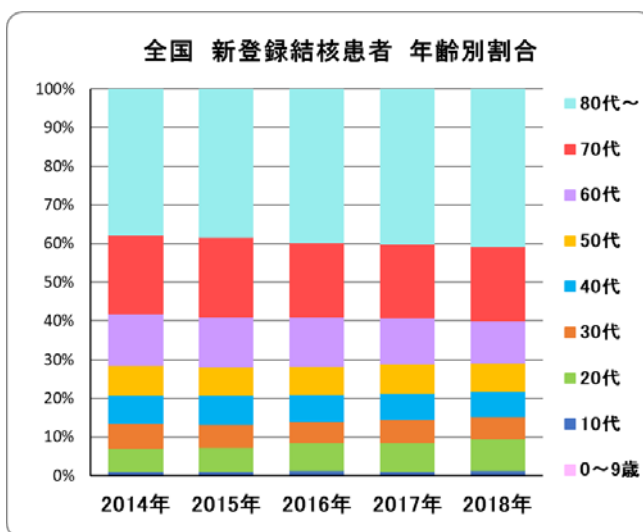
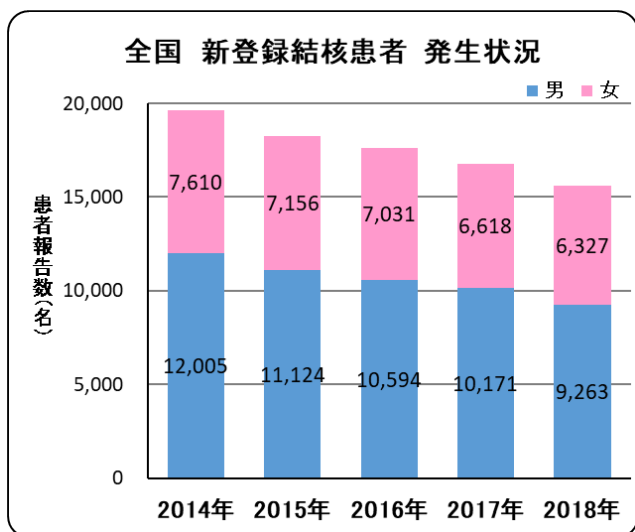
【岡山県の発生状況】

2019年第36週まで（～9/8）の岡山県の報告数は211名（患者129名、無症状病原体保有者78名、疑似症患者1名、死亡者2名、結核疑い死亡者1名）となっています。2018年に岡山県内で新たに登録された結核患者（新登録結核患者）は187名で、2017年の212名からわずかに減少しています。年齢別では80歳以上が最も多くなっており、70歳以上の高齢者が新登録結核患者の67%を占めています。



【平成30（2018）年の全国の結核発生状況】

結核登録者情報調査年報によると、全国の新登録結核患者は15,590名で、2017年の16,789名とほぼ同数でした。年齢別では、70歳以上の新登録結核患者が全体の60%近くを占めており、患者が年々高齢化しています。日本は、2020年までに結核り患率（人口10万あたり）10以下の結核低まん延国となることを目指していますが、2018年のり患率は12.3と、2017年の13.3とほぼ同数で、未だ、中まん延国の状況です。都道府県別のり患率は、大阪府（20.5）が最も高く、次いで長崎県（16.6）、兵庫県（15.1）の順となっています。岡山県のり患率は、9.9で、2017年の11.1からわずかに減少しましたが、引き続き注意が必要な状況です。



麻しんに注意しましょう！

●全国的に麻しん（はしか）の感染患者が確認されています！

全国では、第35週の発生報告はなく、2019年の累積患者報告数は676名となっています。

●麻しんはワクチンで予防できます！

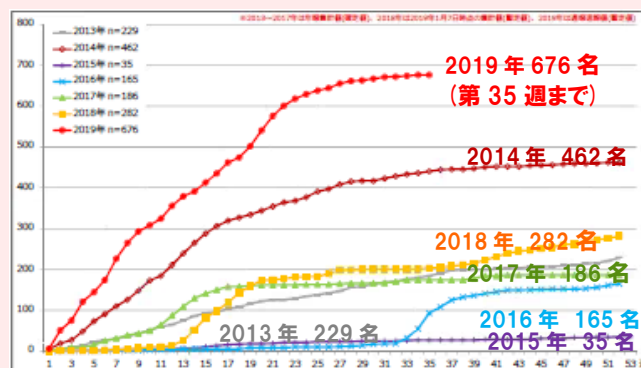
麻しんは、2回のワクチン接種でほぼ確実な免疫を得ることができるとされています。

1990年4月以前に生まれた方は、未接種か、1回接種の場合が多く、1回接種の場合でも免疫が低下している可能性があります。

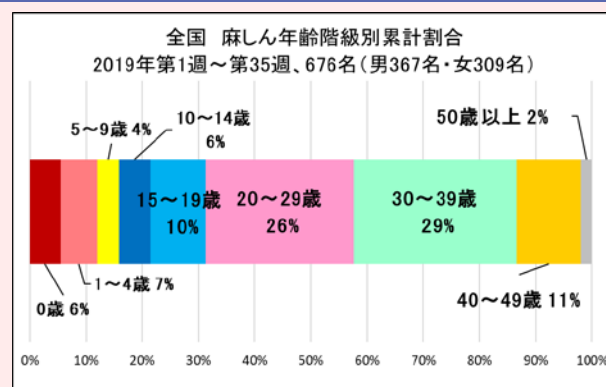
加えて、麻しん感染が重症化しやすい小学校入学前までのお子さんのMRワクチンの接種状況について、今一度ご確認ください。

この年代では定期接種2回となっていますので、母子健康手帳を確認の上、接種が行われていない場合は、MRワクチンを接種してください。

また、これから妊娠を計画されている方や妊婦の周囲の方（特に28歳以上）は、ワクチン接種についてご検討ください。なお、医療機関によってはMRワクチンが不足している場合もありますので、事前に問い合わせることをお勧めします。



全国の麻しん累積報告数推移（2013年～2019年第35週）



☆症状等については以下のリンクをご覧ください☆

[麻しんについて（厚生労働省）](#)

[麻しんとは（国立感染症研究所）](#)

[「妊娠している方へ麻しん（はしか）の流行についてのご注意」（日本産婦人科医会）](#)

◆◆◆ 食中毒予防の3原則 ◆◆◆

岡山県は腸管出血性大腸菌感染症注意報発令中です！

次の3原則に心がけ、食中毒予防に努めましょう。

➤ 「清潔」（菌をつけない）

- ・調理前、食事前、トイレ後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。
- ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄・消毒を行いましょう。
- ・焼肉をする時は、生の肉をつかむはしと食べるはしを使い分けましょう。

➤ 「迅速・冷却」（菌を増やさない）

- ・生鮮食品や調理後の食品は、できるだけ早く食べましょう。
- ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
(生食用鮮魚介類は、4℃以下で保存するよう努めましょう。)

➤ 「加熱」（菌をやっつける）

- ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
- ・特に、食肉は中心部まで十分に火を通し、生食は避けましょう。



© 岡山県「もっちり」

[食中毒予防の3原則（岡山県 生活衛生課）](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省）](#)

保健所別報告患者数 2019年 36週(定点把握)

(2019/09/02～2019/09/08)

2019年9月12日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	11	0.13	4	0.18	1	0.06	4	0.27	-	-	1	0.17	-	-	1	0.10
RSウイルス感染症	134	2.48	35	2.50	21	1.91	15	1.50	15	2.14	1	0.25	-	-	47	7.83
咽頭結膜熱	24	0.44	15	1.07	5	0.45	-	-	2	0.29	-	-	-	-	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	53	0.98	14	1.00	14	1.27	1	0.10	13	1.86	2	0.50	3	1.50	6	1.00
感染性胃腸炎	223	4.13	89	6.36	49	4.45	39	3.90	8	1.14	11	2.75	10	5.00	17	2.83
水痘	6	0.11	3	0.21	1	0.09	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	-	-
手足口病	192	3.56	70	5.00	62	5.64	14	1.40	22	3.14	9	2.25	1	0.50	14	2.33
伝染性紅斑	51	0.94	12	0.86	-	-	-	-	10	1.43	29	7.25	-	-	-	-
突発性発疹	16	0.30	7	0.50	4	0.36	2	0.20	2	0.29	-	-	-	-	1	0.17
ヘルパンギーナ	37	0.69	17	1.21	12	1.09	3	0.30	1	0.14	-	-	1	0.50	3	0.50
流行性耳下腺炎	4	0.07	2	0.14	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	8	0.73	5	1.25	1	0.25	1	1.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2019年 36週(発生レベル設定疾患)

(2019/09/02～2019/09/08)

2019年9月12日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	11	0.13	4	0.18	1	0.06	4	0.27	-	-	1	0.17	-	-	1	0.10
咽頭結膜熱	24	0.44	15	1.07	5	0.45	-	-	2	0.29	-	-	-	-	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	53	0.98	14	1.00	14	1.27	1	0.10	13	1.86	2	0.50	3	1.50	6	1.00
感染性胃腸炎	223	4.13	89	6.36	49	4.45	39	3.90	8	1.14	11	2.75	10	5.00	17	2.83
水痘	6	0.11	3	0.21	1	0.09	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	-	-
手足口病	192	3.56	70	5.00	62	5.64	14	1.40	22	3.14	9	2.25	1	0.50	14	2.33
伝染性紅斑	51	0.94	12	0.86	-	-	-	-	10	1.43	29	7.25	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	37	0.69	17	1.21	12	1.09	3	0.30	1	0.14	-	-	1	0.50	3	0.50
流行性耳下腺炎	4	0.07	2	0.14	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	8	0.73	5	1.25	1	0.25	1	1.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2019年 第36週 2019/09/02～2019/09/08)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	11	-	-	-	-	-	1	1	2	-	2	-	-	2	1	-	2	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	134	20	25	47	25	8	5	2	2	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	24	-	1	6	3	2	2	4	1	2	1	-	1	-	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	53	-	1	3	5	4	6	9	8	1	4	-	4	3	5
感染性胃腸炎	223	8	22	44	26	14	27	8	13	9	3	6	23	8	12
水痘	6	-	2	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-
手足口病	192	1	11	52	36	29	30	14	7	5	2	1	3	-	1
伝染性紅斑	51	-	1	3	6	6	7	13	1	6	2	3	-	-	3
突発性発疹	16	-	6	7	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	37	-	6	13	8	3	1	2	1	-	-	1	2	-	-
流行性耳下腺炎	4	-	-	-	-	1	1	-	1	1	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	8	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	2	2	1	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

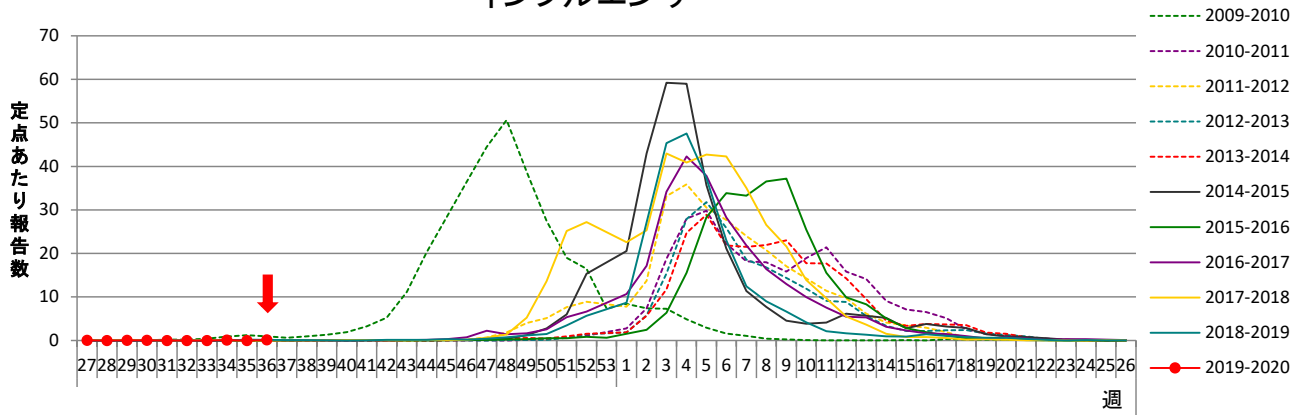
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

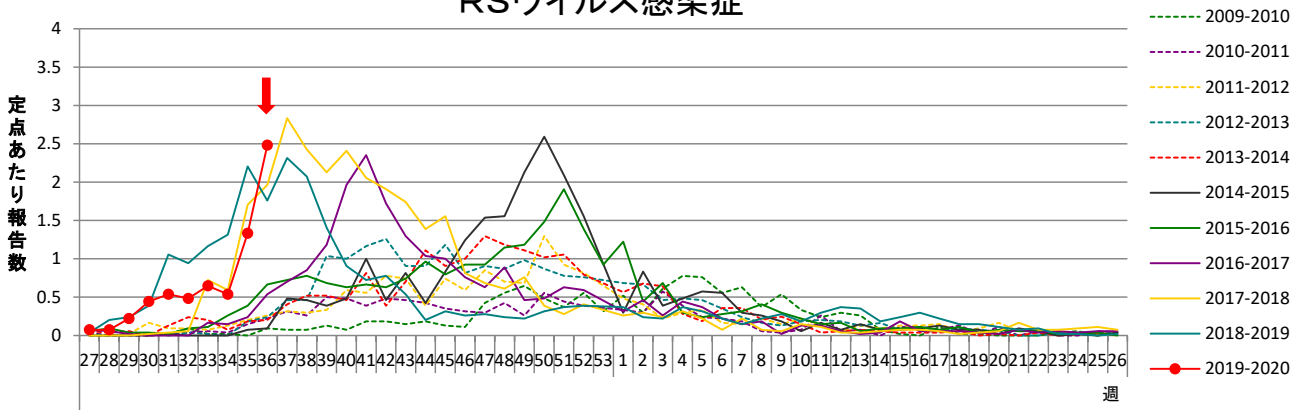
2019年 36週

分類	疾病名	2019		2018	疾病名	2019		2018	疾病名	2019		2018
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	2	211	337	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	2	16	腸管出血性大腸菌感染症	1	41	70
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	1	5
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	2	2
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	2	2
	デング熱	-	6	-	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	1	5
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	1	1	マラリア	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	2	40	83
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	11	15	ウイルス性肝炎	-	8	5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	22
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	2	3	急性脳炎	1	13	6	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	4	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	5	14	後天性免疫不全症候群	-	6	18
ジアルジア症		-	-	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	4	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	1
侵襲性肺炎球菌感染症		-	29	45	水痘(入院例に限る。)	-	7	3	先天性風しん症候群	-	-	-
梅毒		1	129	160	播種性クリプトコックス症	-	-	2	破傷風	-	2	2
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	2	-	百日咳	19	295	187
風しん		-	3	29	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-

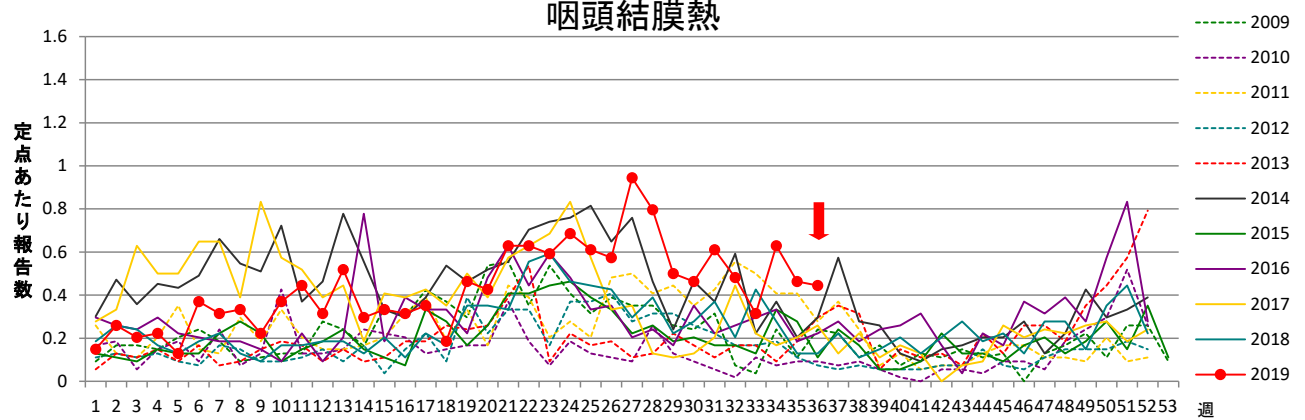
インフルエンザ



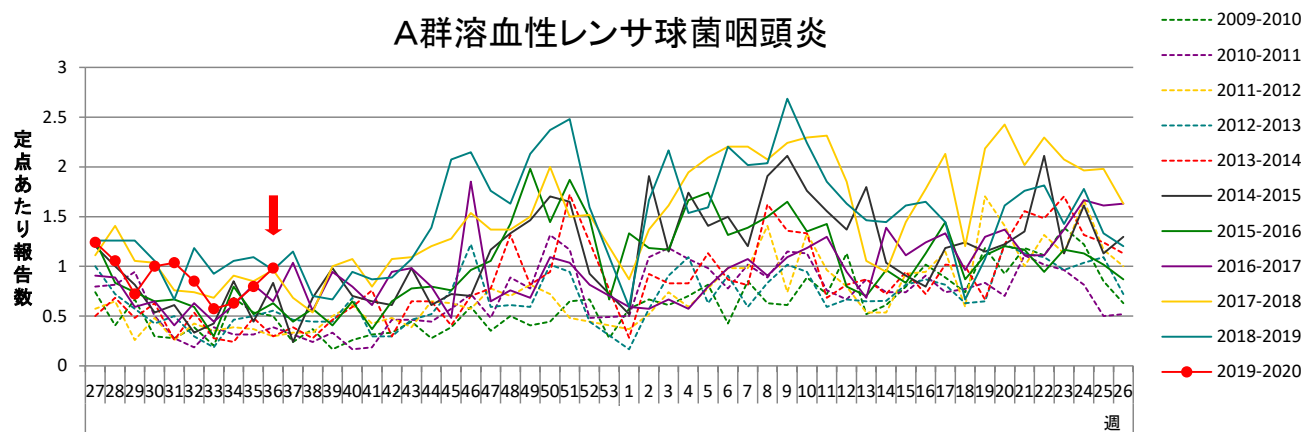
RSウイルス感染症



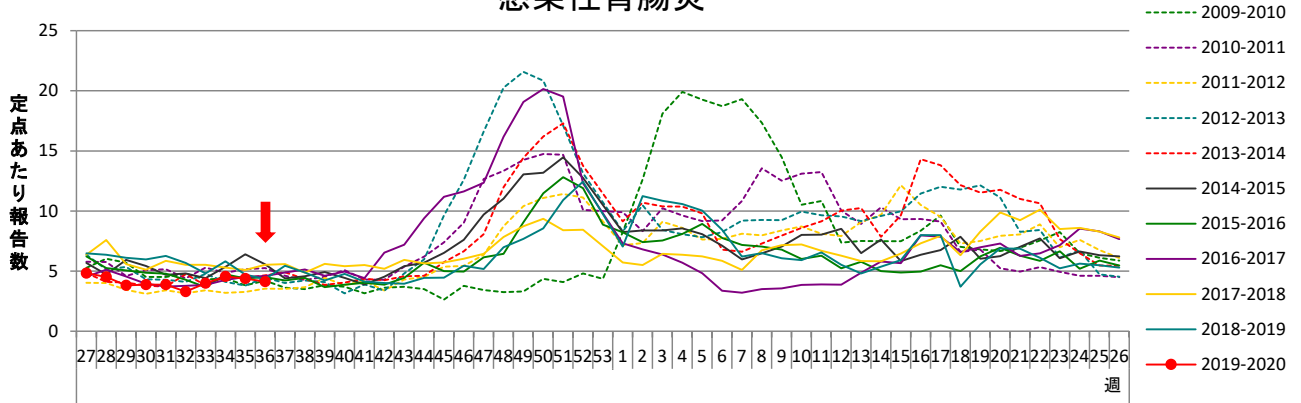
咽頭結膜熱



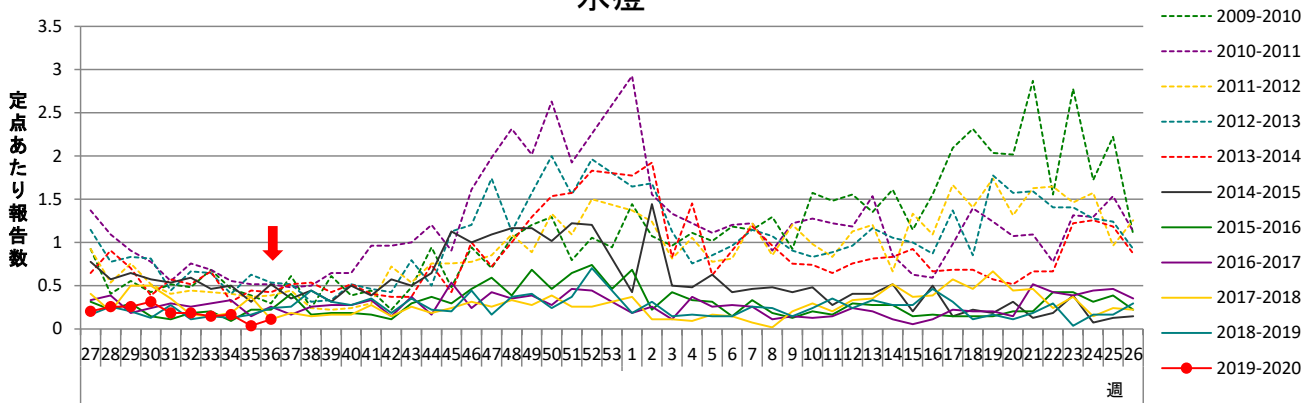
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



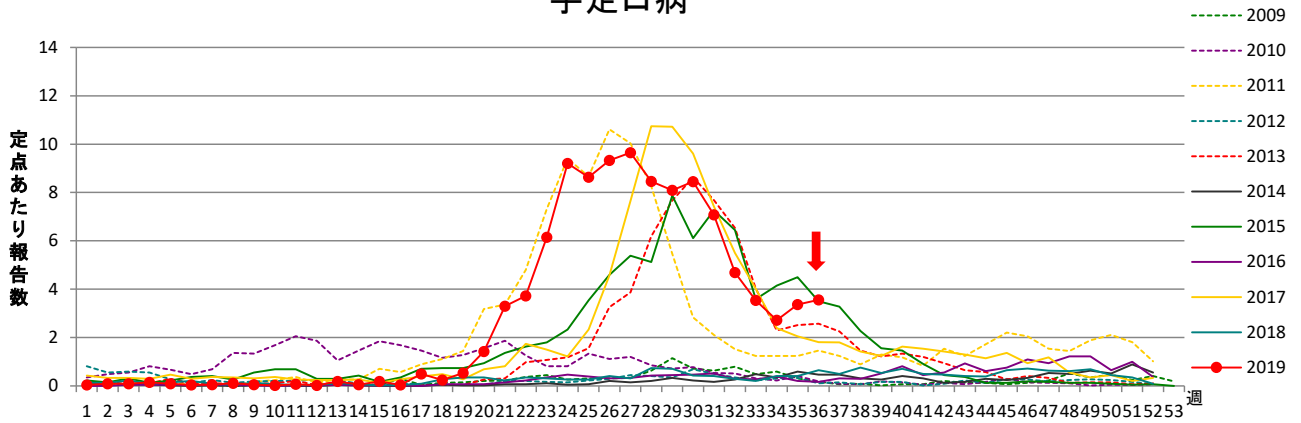
感染性胃腸炎



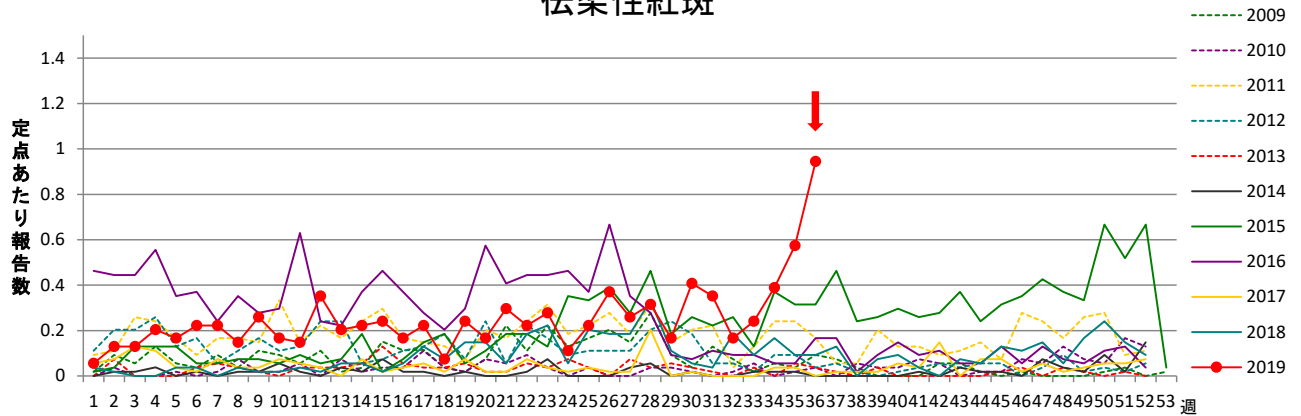
水痘



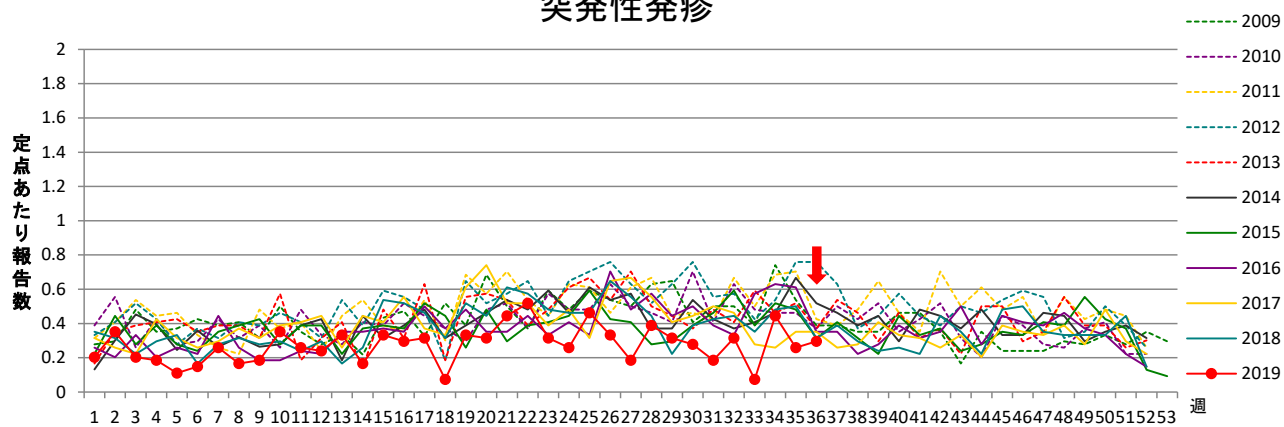
手足口病



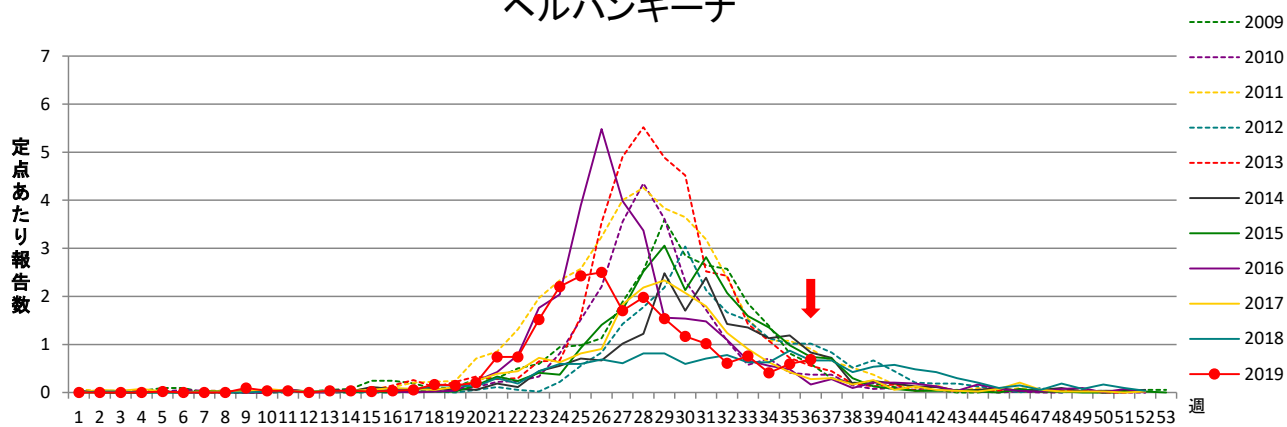
伝染性紅斑



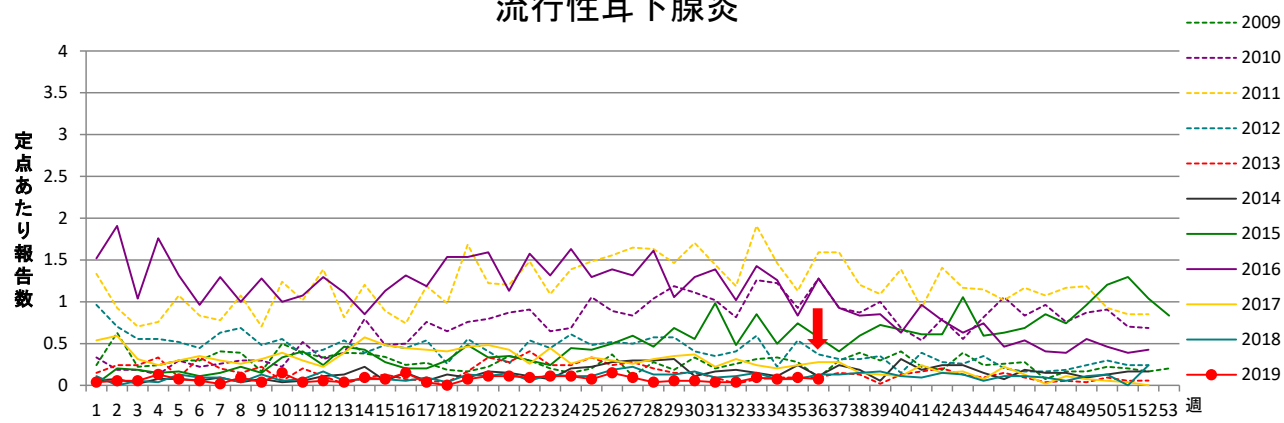
突発性発疹



ヘルパンギーナ



流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

